

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	作業療法学分野
学籍番号		院生氏名	松谷 信也
通学キャンパス			
論文題目	創作的作業が健常成人の遂行機能に及ぼす影響 — ストループテストとトレイル・メイキングテストを用いた検討 —		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p>< 審査結果の要旨 ></p> <p>【研究概要】</p> <p>(目的) 創作的作業が健常成人の遂行機能に及ぼす影響について検討し、作業の遂行機能に対する作業療法の有用性について知見を得ることである。</p> <p>(方法) 健常成人 88 名を対象として、①創作課題群、②反復課題群、③安静課題群の 3 群に無作為に割り付け、各作業課題実施前後に遂行機能の効果測定 (ストループテストとトレイル・メイキングテスト) を行なった。なお、対象者に対する十分な倫理的配慮がなされた。</p> <p>(結果) 創作課題の実施前後における遂行機能検査の成績は、課題実施前に比べ課題実施後において有意に高くなり、反復課題および安静課題に比しても有意に高い結果が得られた。</p> <p>(結論) (単純な) 反復的作業に比べて、創作的作業 (創造性が必要となる作業課題) の効用が高いという可能性が示唆された。つまり、遂行機能障害および高齢者の遂行機能向上に有用である可能性が示唆された。</p> <p>【知見の新規性と価値について】</p> <p>作業療法では、介入手段として様々な作業種目を用いるものの、創作的作業 (創作的課題) と単純作業 (反復課題) の効用の違いに視点をあてた研究は無かった。特に、創作的作業は最も作業療法に用いられてきた作業課題であり、本研究において、創作的作業の治療的効果と効用の根拠を示すという点では新規性および価値が高い。</p> <p>【審査経過】</p> <p>本研究は、昨年度の論文審査で不合格となった研究課題である。昨年度の審査で指摘された修正内容をもとに本年度に加筆修正して提出され、12 月 5 日に審査を行なった。審査会では審査員からの質疑に対して適切な回答がなされたが、論文の記載内容に一部の修正が求められた。以後、再提出により記載内容が適切に加筆修正されたことを確認した。</p> <p>【合否】</p> <p>以上の結果より、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	原口 健三	
	副 査	杉原 素子	
	副 査	阿部 晶子	